

「何のためにするのか」が、 取り組む中で見えてくる。

説明と小さな実践をつなぎ、必要性への理解を支える

重要性は伝えた。
けれど、次の仕事に
つながらない。

そのとき、本人が一部をつくり、
途中のものを一緒に見てみる。

14名のリーダー研修の観察から
管理職・育成担当者・研修担当者へ



イラストは仕組みを説明する架空の仕事場面です。

14名の研修で、何が変わったか。

取引先構成図を、研修中に実際に作成した。

半年以上、重要性を伝えてきた

必要性への理解や、図を使って
どのように対話を進めるかの
見通しは、十分に生まれていなかった。

→

研修中に、実際に作ってみた

必要性を理解し始め、
対話の進め方が見えてきた。

自分が知らないこと
判断したいこと
相手と確かめたいこと

この変化は、14名の反応についての講師の観察です。
理解度の測定値や、比較条件による効果検証を示すものではありません。

自分で形にすると、判断が必要になる。

作成中の迷いが、確かめたいことを具体的ににする可能性がある。

この位置に置く根拠は？



仕組みを説明する架空例：資料を見ながら項目を並べる

1 置く

どこに置けばよいだろう。

2 根拠を確かめる

何を見て、そう判断したのか。

3 未確認を見つける

ここは、まだ分かっていない。

必要性は、取り組み始めた後にも具体的になっていく。

説明と経験が結びつくと、意味が見えてくる。

これまでの説明

目的・言葉・見方に
触れてきたこと

今回の作成

具体的な対象に向き合い、
判断に迷ったこと

何を知り、何を判断するために
この方法を使うのかが、見え始める。

半年間の説明も、理解の下地になった可能性があります。

今回の観察だけでは、説明と作成それぞれの寄与は切り分けられません。

途中のものが、対話の入口になる。

相手が気になったところから、知りたいこと・判断したいことをたどる。



まず、反応を聞く

気になるところは？

判断に必要なことを聞く

**何が分かると、
先を決められそう？**

次の確認につなぐ

誰と、何を確かめたい？

問いは職場で使うための提案です。参加者の発言の引用ではありません。

自分の職場では、何を小さく形にするか。

既にある資料や最近の仕事を使い、一部分を試せる対象にする。

仕事の場面	小さく形にするもの	一緒に確かめる問い
業務改善	最近の一件について、 仕事の流れを並べる。	どこで止まったか。 誰の判断が必要だったか。
引き継ぎ	一件の仕事を、 引き継ぐ相手と進める。	どこが伝わらなかったか。 何を補うと進められるか。
事業の見直し	顧客・売上・利益の 構成を仮に整理する。	今の構成でよいか。 何を増やし、何を変えるか。

選ぶ・並べる・一件を進める。本人が判断する場面をつくる。

次の仕事で、一つだけ試してみる。

01 対象を一つ選ぶ

既存の資料、最近の一件、途中の案から選ぶ。

02 本人が一部をつくる

仮に並べる、一件を記入する、一部分を試す。

03 途中のものを一緒に見る

気になるところ、不明点、聞きたいことを確かめる。

04 目的と説明をつなぎ直す

何を判断するために必要かを確かめ、次の一步を決める。

試せる条件も整える。 時間・資料・相談先を用意し、負担を小さくする。

見たい変化： 本人が不足を挙げ、判断の理由や次に聞くことを示せるか。

研究との接点と、この資料で言える範囲。

具体的な違いに気づくことが、説明を理解する準備になる

Schwartz & Bransford (1998) は、事例を比較・分析してから説明を受ける学習を検討。今回の事例を考える接点は、説明を自分の問いに結びつける準備です。

Schwartz, D. L., & Bransford, J. D. (1998). A Time for Telling. *Cognition and Instruction*, 16(4), 475–522.
https://doi.org/10.1207/s1532690xcil604_4

手を動かすことには、考えるための情報を得る働きもある

Kirsh & Maglio (1994) は、テトリスの操作が情報の発見や思考を助ける点を検討。作成を、分からないことに気づく過程として捉える手がかりになります。

Kirsh, D., & Maglio, P. (1994). On Distinguishing Epistemic from Pragmatic Action. *Cognitive Science*, 18(4), 513–549.
https://doi.org/10.1207/s15516709cog1804_1

両研究は、今回の研修や手順の効果を直接検証したものではありません。
本資料は講師の観察と解釈、応用の提案です。長期的な成果は示していません。

制作：リクエスト株式会社／甲畑智康 2026年10月
<https://requestgroup.jp/> お問い合わせ：request@requestgroup.jp